

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
国語	現代文B	普通科・3学年(文系)	3単位
教科書	[主たる教材] 現代文B (数研出版)		
副教材等	[副教材] 新国語便覧 (第一学習社) 大学入試国語頻出問題1200 (いっずな書店)		

1 学習目標

近・現代の評論文や小説を読解することで、論理的に考える力と、他者にわかりやすい言葉を選んで表現できる能力を養成する。教材に含まれるさまざまな人間像や思想、社会的歴史的な流れを学ぶことによって、豊かな感性と自分の人生を考察する姿勢を身につける。

2 指導の重点

- ①知識、技能の習得に向けて
受験の演習に向けた知識、技能の定着。及び生徒の進路目標に応じた専門知識の基礎の涵養。
- ②思考力、判断力、表現力の育成に向けて
グループ学習やプレゼンテーションを通じて、知識、技能を活用した思考力、判断力、表現力を育成する。
- ③学びに向かう力の涵養に向けて
様々な協同活動などを通じて、社会適応力、自己分析力、主体的実行力などを育成する。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習内容 (指導内容)	時間	評価方法
4月	評論 (一)	「文化が違う」とは何を意味するのか?	・他文化の理解を深める。 ・多面的な視点を養う。	8	授業の取組
5月	評論 (一)	日本語は非論理的か	・論理的であるとはどういうことかを学ぶ。	8	
6月	小説 (一)	舞姫	・人物、情景、心情を理解する。 ・時代背景と近代人の意識を考察する。	20	定期テスト
7月	評論 (二)	「である」ことと「する」こと	・文化、経済について筆者の主張を読み解く。	12	授業の取組
9月	評論 (二)	人はなぜ働かなくてはならないか	現代文化の意識について理解を深める。	10	定期テスト
10月	評論 (三)	コピーの芸術	現代文化の意識について理解を深める。	10	定期テスト
11月	評論 (三)	メディアのテロル	現代文化の問題点に目を向ける。	10	授業の取組
12月		問題演習	・受験に向けた演習を行い、知識を活用し、マーク・記述に対応できる力を養う。	18	定期テスト

計 96 時間 (55分授業)

4 課題・提出物等

- ・漢字、慣用表現などの小テスト週1回実施。
- ・週末課題として、問題集を使用し学習、週初めに提出。
- ・大学受験志望者に向け、模擬試験などの見直し課題の提示。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)			(知識・理解)
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、定期考査、課題テスト、授業内の小テスト、課題提出、授業への取り組みを総合して評価する。				

6 担当者からの一言

<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を注意深く聞く、あるいは読むことで、意図を酌み取り理解する力を身につけること。他人と自分の意見、表現を比較して自己の考えを深化させること。他人に納得してもらえる 表現力を身につけるために、他人の意見、文章を参考にすること。これらの力を養成することが大切です。 ・①曖昧な理解をしていた語句の意味を確認する。②書き手の意図をとらえる。③文章についての疑問点を挙げておく。①～③の予習をして授業に臨むことが大切であり、密度の濃い授業が個々の学力を高める基礎となります。 ・毎週1回のペースで小テストを実施します。 ・授業で扱うものに限らず、さまざまなジャンルの文章を数多く読むようにしてください。(担当：友野忠昭)
--